

誰一人取り残さない、持続可能なまちへ――。

「生きる力」という

DNAを信じて。

三芳町長 林 伊佐雄



のぞみら
ポロシャツ

秘書広報室で
販売中
(1,200円)
裏面にのぞみら!

1

755年11月1日、午前9時40分頃、ポルトガルの首都・リスボンを強烈な揺れが襲いました。

リスボン大地震をきっかけに歴史は大きく動く。死者5〜6万人(当時の人類の人口は7億人)という大惨事は、ヨーロッパを恐怖に陥れます。

一言でいえば、「神は人間を見捨てたのではないか」というのが、人々の恐怖の核心にあり、神に見捨てられたとなれば、自分の命は自分で守らなければならない。その恐怖から、「近代」という時代が始まったと言われています。

人類史は災害史ともいえます。過去の大災害の歴史をたどると、

巨大地震や火山噴火、洪水、干ばつ等の天変地異、また疫病の大流行や長期化する戦乱等の人為災害も含め、大災害をきっかけとして歴史が動き、転換してきました。

「生きる力」を信じて

今、人類は、新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大という未曾有のパンデミックの真ただ中にあります。私たちは、歴史に学び、人類の叡智と科学と、そして、あらゆる困難をも乗り越えていこうとする人類に継承されてき



▲コロナ禍という困難な状況のなかでも、その先にある夢や希望を見つめる新成人たち。

た「生きる力」というDNAを信じ、力を結集すれば、必ず、いかなるウイルスをも克服することができます。そして、リスボン大地震以降に『近代』が始まったよう

に、私たちは、このパンデミックから何を学び、コロナ後の世界をどのように構築し、創造していくのか。嵐に荒れ狂う大海の中で翻弄される小舟であっても、乗組員が丸となって嵐と戦い、目的地をめざします。小さな自治体であっても、パンデミックで翻弄される歴史の中にあつて、新たなパラダイムシフトが予見される未来のまちづくりに向かつて、冷徹な、しかも熱き思いと眼差しをもって進む時です。

町政運営の基本方針

新型コロナウイルス感染症の感

染拡大によって、50周年記念式典、オリンピック・パラリンピックも延期となり、多くの事業が中止となりました。住民の皆さまも不要不急の外出や行動が制限され、不安と閉塞感の中での生活を余儀なくされた1年でした。

「心の渇き」を満たす

本来、街は、同じ空間と時間の中で、人々が集い、交わり、学び、感動し、共に成長し、より豊かな人生を送る劇場とも言えます。しかし、劇場は閉鎖され、その空間



▲新入生に優しく話しかける6年生。コミュニケーションが、楽しい学校生活をつくります。

と時間を共有することができませんでした。コロナを経験し、日常生活の中

で、人と人が出会い、共に生きていくという喜びと感動を実感しながら「生きる」ということの重要性を再認識しました。人が生きていく上での「人とのつながり」による実存的な「心の渇き」を、協働に加え共生社会の推進の中で満たしていくことが求められています。

誰一人取り残さない町

可能な施策や事業をすべてSDGsに位置づけ、さらに持続可能なまちづくりの推進に取り組んでまいります。

※ SDGs(エス・ディー・ジーズ):国連で採択された国際目標「Sustainable Development Goals/ 持続可能な開発目標」

「誰一人取り残さない」ことが、コロナ禍で様々な人権等が阻害されている中で最重要な理念となります。

「特性・資源を活かすまちづくり」は、雑誌「アエラ」のコロナ後の移住先自治体ランキング、隈研吾氏の今後のまちづくりでの可能性の言及にあるように、三芳町には多くの資源・特性があります。「脚下照顧」、足元を見つめ直し、三芳町の特性・資源を再発見し、磨きをかけて新たなイノベーションを興す時です。

POINT 3つの

町政運営 基本方針

1 サステナビリティのまちづくり ～1人ひとりの命と未来を見つめて

1人ひとりの命と尊厳を大切に未来への視座を持って、「今」を生きる住民の皆さまの生活を守ります。一方で未来に向けて人材育成をしていくことが重要です。新型コロナウイルス感染症の長期化により、令和3年度当初予算は町税収入の大幅な落ち込みが確実となつてきてい

るため「持続可能なまちづくり」を更に徹底し、「財政サステナビリティ宣言」を発出しました。



2 共生社会の実現に向けて ～価値観の共有と統合、新たな価値の創造へ

誰しもが個性と人格を尊重され、幸せに生きることができる社会を実現していきます。今年度は(仮称)共生社会推進条例検討委員会やワークショップの開催等により広く意見をお聴きし、条例制定に向けて気運を醸成します。また、「共生社会推進懇談会」において、町のめ

ざす共生社会のイメージを広く周知するとともに、取り組みを具体化する方策を検討します。



3 Life change experience ～レガシーの萌芽と1人ひとりの幸せの実現

三芳町は、オランダのホストタウン、マレーシアの共生社会ホストタウンとして、中学生海外派遣事業などの交流を行ってきました。行政の使命は、住民福祉の増進にあります。出逢いや感動、喜びなどが実感できる「Life change experience」(人生を変える経

験、魂が触れ合う経験)により、生活の中で幸せを実感できるまちづくりを推進します。

